

第三十一回

二之丸 薪能



- 日時 令和6年5月8日(水曜日)
開場午後5時 開演午後6時
- 会場 松山城二之丸史跡庭園内特設能舞台
- 雨天時 松山市民会館中ホール
開演午後6時30分
- 会費 1,400円
(文化協会会員1,000円・高校生以下700円)
- 主催 松山市文化協会
- 共催 松山市
- 協力 公益社団法人愛媛能楽協会
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
- 後援 松山市教育委員会・愛媛新聞社・NHK松山放送局
南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ
FM愛媛・愛媛CATV・えひめリビング新聞社

薪能への招待(能と狂言)

能とは

能面や美しい装束、地謡のコーラスや囃子でシテを盛り立て、古典的で幻想的な幽玄の世界を描きます。特に能楽師は能面を「オモテ」と呼び、曲中の人物に扮するための単なる仮面「道具」ではなく、演者が「オモテ」を掛け、全身全霊を面にかける舞台でこそ、初めて面は命を得ます。

舞囃子とは

能一曲の中の一部分を、面や装束を着けずに地謡と囃子を伴い、紋付、袴姿で演じる略式演奏です。

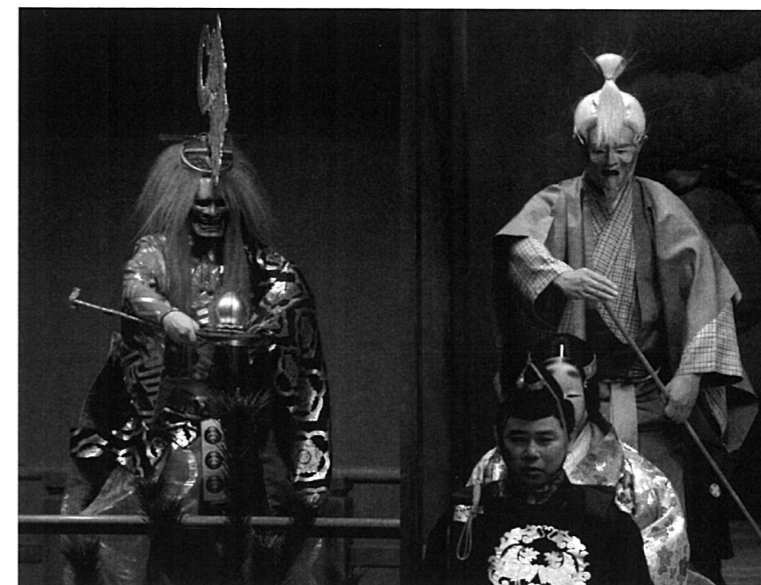
狂言とは

われわれの身近な人物が登場し庶民のよろこびや悲しみ、おかしさ、おろかさを題材にいっきと表現する笑いを中心にした対話劇です。

その時代の世相を活写した、その時代の現代劇と言えましょう。

鑑賞するには「松山城二之丸薪能を楽しむ会」の会費1,400円(文化協会会員1,000円・高校生以下700円)が必要です。会費は、入園時に集めますが、前売券も販売しておりますので、松山市文化協会事務局または各出演者までお問い合わせください。

＜松山市文化協会事務局＞
松山市総合コミュニティセンターこども館事務室内
TEL : 089-909-8008



宝生流「竹生島」解説

竹生島は近江の国(滋賀県)の琵琶湖の北方に浮かぶ小さな島です。古代から神を祀る島として知られ、日本で最初に水の神様である弁財天信仰が根づいた島だと言われています。

能「竹生島」は、ワキ、醍醐天皇につかえる臣下たちが竹生島参詣のため琵琶湖を訪れるところから始まります。臣下たちは、琵琶湖畔で釣船に乗ったシテ、老漁夫とツレ、若い女に出会い、竹生島まで同船させてもらいます。三月半ばの琵琶湖の景色は、山には白雪のごとく桜の花が咲き乱れ、月は湖面にうつって、月の兎が飛び跳ねる様、緑の木の影が水に浮かび、魚はその木々に登るようです。

長閑な美しい景色に酔っているうちに船は竹生島に着き、老漁夫は、島の弁才天の神前に臣下たちを案内します。女も一緒について来るので、臣下は、竹生島は女人禁制ではないかと問いかけます。老漁夫、と女は、島の由来と竹生島の弁才天は女体を祀り阿弥陀如来の御再誕であるから男女の分け隔てはしないと語ります。やがて女は、自分は人間ではないと伝え社殿に入ります。老漁夫はこの湖の主であると告げ波間に消えていきます。

間狂言、神殿の社人は臣下たちに宝物を見せ、高い岩から水中に飛び込む「高飛び」を見せ、くしゃみをして帰っていきます。

やがて神殿が鳴動し、春の日光月光が輝くなか弁才天が現れ、袂を揮かせて天女の舞を舞います。つづいて、月光のさす湖面に波風がたち竜神が現れ、臣下に金銀珠玉を捧げると、勇ましい舞を舞い、衆生済度、国土鎮護を誓って、弁才天は神殿に入り、龍神は竜宮に帰ります。

前半はゆったりとした春の景色、後半は弁才天の美しさと龍神の豪快さの対照的な舞による神の物語を楽しんでいただきたいと思います。

ごあいさつ



松山市文化協会会長
土居 英雄

第三十回「二之丸新能」が多くの来場者を迎えて開催できますことをたいへんうれしく思います。またご協力いただきありがとうございます。松山市文化協会をはじめ関係者の皆様、厚く御礼申し上げます。さて「一般的」に能楽は難しい、分かりにくいもの、という印象があるのではないのでしょうか。しかし能楽は現在、日本を代表する古典芸能となつています。もともとは中国から渡ってきた「散楽」(さんかく)という「民間芸能」でした。それが「猿楽」(ざるがく)となり、更に「能楽」へと変化したのです。わが松山市においても、伊予松山藩時代に松山城の「二之丸」と三之丸に能舞台が造られ、町人たちにも見ることが許された「町入能まぢりり」(まぢりり)も何度も開催されました。その影響もあり、松山城下では町の辻や寺社で行われる大衆向けの「辻能(つじのう)」が催されるようになります。これは公共施設内に能舞台を設置する先駆けであり、松山市の能楽発展の基礎となるとともに、能楽を更に身近な存在にする役割を果たしてきました。このように能楽は、貴重な伝統芸能ではありますが、江戸時代の昔から、市井の暮らしの中にあつたものです。この伝統芸能を継承する愛媛能楽協会の皆様が、毎年「二之丸新能」を上演しています。能楽師の優美な所作、能の美をお楽しみください。結びに、私も松山市文化協会は、今後も松山市の文化活動の振興及び新たな文化の創造を図ってまいりますので、「理解」協力を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ



松山市長
野 志 克 仁

新緑の風薫る爽やかな季節を迎え、「二之丸新能」が開催されますこと、お喜び申し上げます。主催の松山市文化協会をはじめ、開催に当たり尽力いただいた公益社団法人愛媛能楽協会や関係者の皆様、厚くお礼を申し上げます。さて、能楽は、源流をたどると奈良時代にまで遡ると言われています。長い時を経て磨き上げられた優美で格調高い舞台芸術であり、言い尽くせない多くの魅力が秘められています。松山では、能楽は江戸時代に藩が手厚く保護して隆盛を極め、明治の存亡の危機を乗り越えて現在まで受け継がれてきました。今では貴重な伝統芸能として市民から親しまれ、しっかりと地域文化に定着しています。今年も松山城二之丸史跡庭園で、磨き抜かれた見事な舞台を堪能できるのをとてもうれしく思います。今宵は、歴史の記憶を残す石垣を背景に、かがり火に映える幽玄の世界を存分に味わっていただくとともに、これからも、松山市の文化振興に引き続きお力添えをお願いします。

第三十一回 二之丸新能

能 組

舞囃子(親世流)

小袖曾我

元山 由里

大鼓 小鼓

早田 サチ子 横山 幸彦

笛

徳本 達夫

地謡 矢野 琴美 白石 明美 緒方 久恵

松崎 章子 坂本 美恵 徳本 泰子 兵頭 登美子

舞囃子(喜多流)

頼 政

矢野 順子

大鼓 小鼓

早田 サチ子 丹下 紀香

笛

豊島 正憲

狂言(大藏流)

鳴子遣子

某 日野 見衣子

茶屋 某

木本 真知江 中田 易功子

後見

古川 道郎

地謡 山崎 幸敏 門屋 庸夫 金子 敬一郎 澄田 恭一 土居 英雄

(火入れ式)

舞囃子(金剛流)

熊 坂

大川 磨美

大鼓 小鼓

森山 泰幸 丹下 紀香

大鼓 笛

前川 光長 上甲 直美

地謡 真鍋 清 宇高 竜成 宇高 徳成 城戸 敬考

能 (宝生流)

ツレ 宮内 真子

シテ 結城 千恵美

竹生島

ワキ 坂苗 融

ワキツレ 小林 克都

ワキツレ 坂苗 功

大鼓 小鼓 早田 サチ子 丹下 紀香

大鼓 笛

前川 光長 江戸 仁子

後見 山内 崇生 澤田 宏司

地謡 武田 薫 戒能 澄子 稲田 広子

石黒 実都 久貫 弘能 岡田 康子

附祝言

終了予定 午後八時半頃